# 地方都市視察報告書

防災等安全対策特別委員会

１　実施日　令和６年１２月１６日（月）

２　視察地　三重県朝日町

【町の概要】

（１）　面積　　５．９９㎢

（２）　人口・世帯数

（令和６年１１月末現在）

〇人口　　１１，０８３人

〇世帯数　　４，４２４世帯

（３）　朝日町は、三重県の北部に位置し、北東に員弁川・丘陵をもって桑名市に、西南は丘陵・朝明川を隔て、四日市市に隣接し、南東は川越町に続き伊勢湾を望む町である。概ねＪＲ関西本線を境に平地６０％、丘陵地４０％に区分され、平地には水田、丘陵地には標高約９０ｍ以下の山林が存在する豊かな自然と歴史・文化を持っている。また、町内には旧東海道、国道１号が縦断し、伊勢湾岸自動車道みえ朝日ＩＣ、北勢バイパスのジャンクションが存在し、鉄道ではＪＲ関西本線、近畿日本鉄道名古屋本線の２つの駅を有する等、交通利便性が高く名古屋や中部国際空港へのアクセスも良好である。県内で最も小さな町であるが、人口増加率、年少人口割合が県内で１位になるなど人口が増え続けている活気あふれるまちとして有名である。

３　視察項目・内容

スマホを活用した災害情報の伝達について

４　視察参加者

【委員】

えのき秀隆副委員長　　木もとひろゆき委員　　渡辺みちたか委員

藤原たけき委員　　おやまだ静香委員　　たなえひさし委員

杉山直子委員　　青木仁美委員　　中村しんいち委員

【議長】

ひやま真一

【随行】

議会事務局議事係　松浦真奈美　黒木明子

5　視察結果・所感

今回の視察のテーマは「スマホを活用した災害情報の伝達について」であり、地域社会の防災体制強化に向けた具体的な取組を現地で学ぶことを目的とした。視察では、町が導入しているスマートフォンアプリの運用状況や、情報伝達システムの全体像について詳細な説明を受けた。その後、各委員より多岐にわたる質問が寄せられた。朝日町では住民向けに専用のスマートフォンアプリが開発されており、気象庁から発表される警報や避難指示がアプリを通じて即時に通知される仕組みが整っている。このアプリは、ＧＰＳを活用して個々の住民がいる位置に基づいた情報を配信できる点が特徴であり、特に高齢者や交通弱者が適切なタイミングで避難行動を取るための重要なツールとなっている。

視察を通じて、朝日町の取組は小規模自治体ながらも先進的な防災体制を構築していることが確認された。同時に、他自治体が参考にすべきモデルケースとして多くの示唆を得ることができた。情報通信技術の進化により、災害情報の伝達手段は多様化しているが、それらを効率的かつ効果的に活用するためには、技術的側面と住民参加型の取組を両立させることが重要であると感じた。

本委員会は朝日町で得た知見を活用し、今後の防災対策のさらなる向上に努めていくものである。

6　主な質疑項目

（１）　周辺で導入事例のないアプリの採用に関する庁内の合意形成について
（２）　登録数増加に向けた普及活動の工夫について
（３）　導入までの経緯について
（４）　導入コスト及び運用コストについて
（５）　スマートフォンの特性に応じた対応について
（６）　導入の決め手となった優位点について
（７）　スマホアプリアンインストールを防ぐ施策について
（８）　アプリの登録者数と普及率について
（９）　活用実績について

7　その他

【共同視察者】
危機管理担当部危機管理課長
福岡淳也